



撮影：高橋 泰氏

倍率×62 で撮影

角閃石のホイスカー

撮影・文 高橋 泰氏

人工結晶の分野ではホイスカー（ひげ結晶）は研究されていて、様々な形態の結晶が研究され作り出されている。しかし天然のひげ結晶は存在も稀で、あまり研究されていない。宝石の分野では水晶などに内包されたルチルやトルマリンの針状結晶があるが、ホイスカーはさらに細く伸びたものと理解していただきたい。細くなると結晶内部の格子欠陥などの歪が結晶全体の形に影響してくるため、曲がったり、螺旋（らせん）状になったりする。写真は岐阜県山県市柿野で採れた天然石のホイスカーで、分析の結果角閃石の一種であることまでわかっている。ゼンマイを思い出させる形態であり、太さ1ミクロンの結晶が数100本束になっているので絹状の光沢がある。全体にわずかな弾力があり、ピンセットで触れてもすぐには折れない。